



年頭のごあいさつ



井原地区社会福祉協議会

会長 末田 良陽

あけまして おめでとーございませう

新型コロナ感染が伝えられて、丸三年が過ぎようとしています。コロナのためにこの三年間、社協の最大の行事である「敬老祝賀会」が開催できず、関係者の皆様には寂しい思いをしていただいていた大変申し訳なく思っています。今年こそ「敬老祝賀会」が実施できるよう強く願っています。

「地区社協活動拠点活性化事業」への

取り組み

この事業の目的は、広島市社会福祉協議会が安佐北区社会福祉協議会と連携し、地区社協が行う地区社協活動拠点スタッフの配置を支援することにより、拠点において住民同士がつながり合い、地域における様々な困りごと等について、誰もが気軽に相談できる体制づくりを促進し、様々な課題を解決していけるまちづくりを目指すことです。

この事業の最大のメリットは、拠点づくりに必要な経費と拠点スタッフへの謝礼金が一定期間助成されるということです。井原社協としては、井原会館の二階の空き部屋を活動拠点として活用し助成金を利用して整備することを検討しているところですが、活動拠点として活動していくためには部屋の整備は勿論ですが、相談等に対応できる常駐スタッフの確保をどうするかという課題があります。包括支援センターと連携し、社協の役員、福祉委員、民生委員、ボランティアの方々の協力を得ながら、現実問題としてこの事業に取り組めるかどうかを今後検討していきたいと考えています。

「持続可能な地域コミュニティ」の実現に向けて

広島市は令和四年二月に「広島市地域コミュニティ活性化ビジョン」を策定しました。地域コミュニティは、防災、防犯、福祉、子供の育成、環境美化、交通安全、伝統文化の維持、スポーツなど日々の暮らしを充実させる上で欠かせない役割を担ってきました。コミュニティ活性化ビジョンでは将来にわたり、こうした地域コミュニティの活動が持続可能なものになるよう地区社協や連合自治会・町内会が中心となり、地域コミュニティ連絡協議会（仮称）のような新しい組織を作って取り組むよう提言しています。幸いにして、井原地区では既にコミュニティ連絡協議会（コミュニティ協）が組織されており、各コミュニティが連携しながらそれぞれの行事やイベント等を実施しています。今後、井原のまちづくりを検討していく上で取り組むべき課題が生じたときは、現在のコミュニティ協をさらに充実したコミュニティ協とした上で、コミュニティ協が中心となって取り組むことが大事だと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしく願います。

最後に当たり、井原のまちがますます元気になることと、皆様のご健勝・ご多幸を祈念致しまして、新年のご挨拶と致します。

社協事務局だより



「救急医療情報キットのすすめ」

井原社協は、「救急医療情報キット」の配付に取り組んで約10年になります。現在約60戸のかたにご利用頂いていますが、高齢化世帯・一人世帯が進んで、より必要性は高まっているとおもいます。

【救急医療情報キットを用意する目的】

救急時に、救急車を依頼したときに救急隊員は、キットにより、初期対応が迅速にしかもの確に対応でき、併せて医療情報が、搬送先の医師に届く事によって救命治療に役立ちます。

【救急医療情報キットに入れるもの】

- ① 本人確認資料（写真付きをコピー）

- ② 救急安心カード（かかりつけ医・持病・服用中の薬剤情報・緊急連絡先を記入）
- ③ 健康保険証写し
- ④ 現在利用している診察券写し等

【申し込み方法】

- ・自治会の福祉委員または民生委員
- ・費用は、108円です。

*近年の水害を機に地区全体で申し込まれているところもあり、家族に、病人を抱えている方、是非考えて見てください。

「地域福祉功労者表彰」(敬称略)

長年、地域福祉活動に貢献された方が表彰されました。おめでとうございます。今後ともよろしくお願いいたします。

【広島市市長表彰】

- ・井原地区共同募金委員会

井原地区社会福祉協議会

【広島市社会福祉協議会会長表彰】

- ・鳴谷 婦美子（評議委員）

【安佐北区社会福祉協議会会長表彰】

- ・山根 義則（評議委員）
- ・小川 民穂（評議委員）
- ・谷川 啓治（評議委員）
- ・光宗 美穂（評議委員）



「新民生委員・児童委員のお知らせ」

本年の12月の民生委員・児童委員の改選で新しく2名の委員が選ばれました。

- ・角田 博之（山根・下市・中市 担当）
- ・桂 慶子（上市1区2区・沼 担当）

前任者同様、地区の皆様の協力お願いいたします。前任者の堀元大三郎様・山根義則様、長い間お務めありがとうございました。

「行事の中止のお知らせ」

コロナ禍により、左記の行事を中止しております。

- ・一人暮らしの高齢者の集い

今後も、コロナの状況で、予定行事を中止させていただきますことあります。

福祉の灯

井原地区社会福祉協議会に対し、左記の方より多額のご寄付をいただきました。地域福祉に対するご協力とご理解厚くお礼を申し上げ、ご報告いたします。（令和4年7月～12月）

- 7月 金森 義博 様（故金森 春三 様）
- 8月 沼崎 哲 様（故沼崎 百合子 様）
- 10月 平岡 正司 様（故平岡 ツギ子 様）
- 平岡 靖彦 様（故平岡 明彦 様）
- 11月 中村 勉 様（故中村 智彦 様）

コロナ禍のいきいきサロン活動

地域に10のサロンがあります。今期の思い出深い活動を中心に載せました。

・ほたんの会

代表者 大東 敬子

活動状況：コロナ禍でも、予定通り行事消化してきた。ただ年末の恒例行事後は、鍋会は中止して、各自食料持ち帰りにして、自宅で楽しんでもらいました。

・仲よし会

代表者 烏田 節子

活動状況：参加者が少ない時もあるが、百歳体操と茶話会して、出会うこと・しゃべることでストレス解消と健康維持をはかっています。ウォーキングも時にはしています。

・いきいきサロン甲田

代表者 小川 民穂

活動状況：百歳体操は、毎週行うも、行事としては、茶話会や忘年会等5回くらい開催しました。男性の参加もあったりして、継続的参加期待しています。

・みはり会

代表者 土井 道弘

活動状況：地区内が、高齢化して活動を、休止することもあるが、3ヶ月に一度は集まり、穏やかな時間を過ごしています。

・スマイル

代表者 酒井 スズエ

活動状況：コロナ禍で、活動は控えたが、百歳体操と茶話会をホームグラウンドの老人集会所で続けています。早く不安なく活動出来、外出出来る行事をしたいです。

・あじさい

代表者 山縣 幸子

活動状況：少数ながら、毎月活動できた。皆で工夫して、百歳体操後は、茶話会や食事をしてたわいないことを喋ります。ゲームするときは、ビンゴが大人気です。

・ひまわり

代表者 中野 康範

活動状況：予定通り行事を消化する中、地域包括支援センターを招き、介護保険の仕組みや食事面の研修会をしています。一方では、ボーリングゲーム等で体を動かして体力維持を図っています。

・にこにこ

代表者 山縣 まゆみ

活動状況：予定通り行事消化しています。春の花見・年末のしめ縄作りは、長年続いており特に盛り上がります。女性だけの朝ウォーキングも続けています。

・サロン・ド・一区

代表者 池岡 正康

活動状況：毎週集まり、音楽や談笑で楽しんでいます。今年が一番は「お好み焼き対決」で、全会員の協力で盛り上がりました。春の「竹の子を食す会」も印象深いです。

・井原歩いてみよう会

代表者 竹田 紘一

活動状況：以前に会の歌を自作し、今年はその歌に添う独自の体操を考案して実施しています。講師を招いて、体操教室・健康教室も継続的に開催。井原ウォーキングマップも作成中。(令和5年2月発売予定)

特集記事

今回は、社会福祉法人「三篠会」理事長の酒井亮介様に、福祉事業の取り組みをお聴きしました。また、酒井様は養泉寺のご住職でもあり、十代までは、井原地区にお住まいでした。



① 現在経営している施設数は

現在、関東東地方で16施設、関西地方で2施設です。県内は、29施設で県内の内訳は、高齢者施設19・障害者施設5・保育施設4・救護施設1です。

② 「三篠会」の運営を継いで

後を継いだのは、先代の急逝を受けてのことです。が、その数年前より「後を継ぐ」事は、考えるようになりしました。その為いざという場合、こうしたいと書面にしていました。その運営方針は、先代の方針と異なるものもありました。「先代だったら」と想

うこともありませんが、「営み」は、それぞれの時代の背景を踏まえて行われるので、その時点でベストな判断をしてきたことは、間違いないと確信しています。いずれにせよ、先代が築いてくれた有形無形の財産のおかげで、運営させていただいている立場です。

③ 新しくオープンした「白木ツジマチ」について

ツジマチは、大和言葉で「交わる場所」「十字路」を意味します。白木の様々な機能の集積地及び子供から高齢者に加え、働く世代も含め様々な人々が交わる場所を目指すという意図があります。まちづくりに資する施設になってほしいと期待しています。特徴として、建物は、白を基調として、北歐風な外観で、福祉施設よりは地域施設としてのシンボリックさを表現しています。

その館内は、高齢者施設では、あえて相部屋を多くして、複数の機能のすみわけが出来るようにしています。加えて、リフト等の福祉機器活用によるノーリフトインゲアを展開して利用者にも従業員にもやさしい構造にしています。

次に、通所リハビリでは、商業施設に近いこともあり、利用者の中で買い物難民の方には、買い物も兼ねたりハビリを計画しています。

こども園については、遊びの仕掛けを多くし、屋外には山や木、水や石をちりばめ、屋内には、ネット遊具等を設置して、ちょっと危ないワクワクした施設にしました。

最後にカフェです。福祉サービスの必要性の有無

にかかわらず、地域の方にもご利用いただける空間を意識しました。この施設がまちづくりに資するためには、地域住民だけでなく、県道を行き交うドライバーにも立ち寄っていただければと考えています。

④ 多忙中の息抜き

今は、もっぱら子供のテニスの相手です。中学生になって、だんだん嫌がられています。そろそろ、次の息抜きを探しているところです。

⑤ 雑感

よく、後継者について聞かれることがあります。三篠会についても、お寺についても、現時点ではわかりません。私自身も、サラリーマンという世界にいた立場です。現代社会は、血縁ではなく資本や能力のある人が、代表を務めることが一般的になっています。お寺についても、「社会的なつながりや受け皿の拠点」としての役割をこの地域で果たすことができる人が後継者とおもっています。宗教は本来「私たちの頭では受け止めきれない事象を引き受ける」役割をもっています。その役割を根拠にお寺は機能を果たしてきました。息子が継いでくれたら・・・という思いはあります。(了)

酒井様には、大変ご多忙中、インタビューを快く受けていただき、ありがとうございました。

これからも、様々な場面でお会いし、お世話になると思います。今後のご活躍を期待しております。

〈編集後記〉

本年もよろしくお願ひします

